(7)立面計画

- ・川沿いにできた"まち"を原風景として捉え、せせらぎや竹林をイメージ。
- ・コンクリート打放しによる縦方向のストライプをデザインモチーフとする。
- ・外壁の一部には製鉄をイメージした鋼板をアクセントとして用いる。
- •1階の共用部にはガラスを多用し、建物内部の活動が外に表れるよう 計画する。



エントランスと大親望広場は勾配屋根とし、全体 のボリュームに対するアクセントとする。瓦には 島根県産の石州瓦を使用する。



各ホールのホワイエ、2階大観望広場からは 大山を望むことができる。自然に包まれた新 市民会館の目玉の場所となる。



杉板型枠のRC打ち放し 大ホールのボリュームが大きくなる部分の RC打ち放しに杉板型枠を用いることで、 型枠からRCへと写った杉板の模様が周囲 の自然との一体感を生む。



たら製鉄をイメージし、小ホールの一部のファサードにリン酸処理を施した鋼板を用いる。大観望広場の石州瓦とともに建物全体のアクセントになる。



安来市を流れる飯梨川



川のせせらぎと竹林をイメージしたストライ プ状の流れをデザインモチーフとする。